

注意報第2号

各関係機関団体の長
各病害虫防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察注意報第2号について

このことについて、病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

普通期水稻

- 1 病害虫名：斑点米カメムシ類
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生量：平年・前年より多
- 4 注意報の根拠
 - (1) 7月5半旬における普通期水稻の周辺雑草地での20回すくいとり調査の結果、斑点米カメムシ類主要3種(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ)は11.4頭(平年:5.5頭、前年:3.3頭)、カスミカメムシ類は34.5頭(平年:22.9頭、前年:7.0頭)(表1)、ミナミアオカメムシは、0.16頭(過去5か年平均:0.01頭、前年:0頭)と多い。
 - (2) 県下5か所の予察灯における7月5半旬までのミナミアオカメムシの誘殺数は237頭(過去4か年平均44.2頭、前年133頭)と極めて多く(表2)、アカスジカスミカメについても、2,034頭(過去8か年平均1,369.3頭、前年1,449頭)と多い。
 - (3) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高いとされている。
- 5 防除上の留意点
 - (1) 出穂直前の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので、出穂2週間前までに畦畔や休耕田などの雑草管理を徹底する。
 - (2) 穂揃期に100株当たり2~4頭以上認められる場合は防除を行う。なお、防除時期は穂揃期とその7~10日後である。
 - (3) 出穂の早いほ場では集中的に加害される恐れがあるため、発生状況に特に注意する。
 - (4) ミナミアオカメムシは、斑点米カメムシ類の中でも斑点米生成能力が高いので、ほ場での発生に注意する。薬剤については、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤又はジノテフラン剤等を使用する。

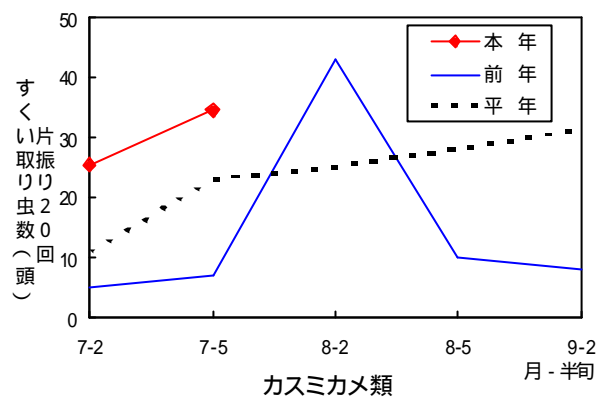
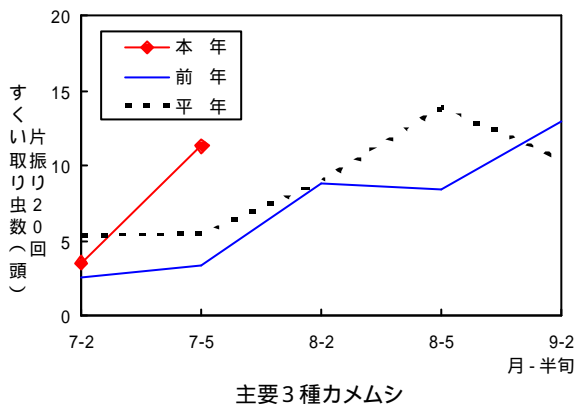


表1 雑草地における斑点米カメムシ類の発生推移

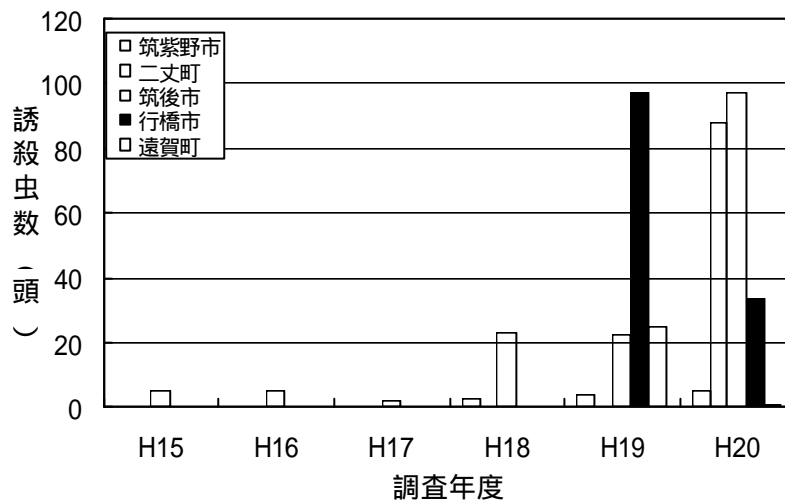


表2 予察灯によるミナミアオカメムシ(4月~7月5半旬)の誘殺数の年次推移